

## 6 月の日本留学試験 (EJU) 結果

## 世界平均を 42 点上回る

## 校内トップは Mellisa さん

6 月 16 日に世界 15 か国(総受験者数は 31,919 人)で実施された 2019 年度第 1 回日本留学試験(EJU)の結果が発表されました。校内では 29 人(うち進学クラス 24 人)が受験し、進学クラスの Mellisa Ardelia さん(インドネシア)が、「日本語」(400 点満点)で 358 点を獲得しトップでした。世界最高点は 390 点でした。

## 6 月の成績としては驚異的

進学クラス(A, B クラス)の平均点は 276.6 点で、世界全体の平均 234.1 点を 42.5 点も上回りました。日本語クラスを含めた校内全体の平均を見ても 272.0 点と、好成績でした。

例年、JET の進学クラス平均は、11 月の EJU で世界平均を 40 点以上上回っていますが、6 月の EJU では 20 点程度の差しかありません。6 月の時点でこれだけ大きな差をつけることができたのは珍しく、今年は 11 月の結果が楽しみです。

## 「聴解・聴読解」で 3 人が世界最高点

分野別に得点状況を見ると、「聴解・聴読解」(200 点満点)で、黄玟嵐さん、Mellisa Ardelia さん、Tan Xin Wei さんの 3 人が世界最高点の 172 点を記録しました。黄玟嵐さんは昨年 10 月に初級クラスに入学したばかりですので、中級レベルに入ってまだ 3 か月も経っていません。

また、「読解」(200 点満点)では、Tiffany Carissa さんと黄皓雪さんが 192 点で校内最高でした。「読解」の世界最高点は 198 点でした。

日本語の「記述」(50 点満点)では、世界平均が 32.5 点だったのに対し、進学クラス平均は 37.5 点でした。校内最高点は 45 点で、A クラスの 5 人でした。

## 「日本語」校内ベスト 5 (400 点満点)

順位	クラス	氏名	出身	得点
1	A	Mellisa Ardelia	Indonesia	358
2	A	Tiffany Carissa	Indonesia	353
3	A	黄 玟嵐	台湾	347
	A	Tan Xin Wei	Malaysia	
5	A	黄 皓雪	Macau	346

## 第 25 回 校内スピーチ大会

最優秀賞は Chee Jia Hui さんと  
Asa Satyagraha さんに

7 月 26 日に行なわれた第 25 回校内スピーチ大会には、各クラスの子選を勝ち抜いた 14 名が出場し、最優秀賞をマレーシアの Chee Jia Hui さんとインドネシアの Asa Satyagraha さんが獲得しました。

優秀賞には、尹暎暎さん(韓国)、林恒璋さん(台湾)、榎戸バービーさん(フィリピン)の 3 名が選ばれ、次点の努力賞には、Le Tiffany Diem さん(USA)が入賞しました。

入賞者には後援会から賞品が贈られました。最優秀賞が東京ディズニーリゾートのペアチケットと桃。優秀賞が①映画ペアチケットと図書券のセット、②令和グッズ(T シャツ、クリアファイル、トートバック)、③輪島塗の小鉢とぐい飲み、スプーンのセット、のいずれか。努力賞が特大のスイカでした。なお、桃は評議員の本郷安史様から、輪島塗のセットは石川県の輪島で漆器の工房を営む垣内幸彦様からのご提供です。

この大会で、サマーコース(初級クラス)の発表もありました。3 面に最優秀賞の原稿、4 面に出場者一覧を掲載しました。



入賞者たち。井上校長の右から順に、Le Tiffany Diem さん、Asa Satyagraha さん、Chee Jia Hui さん、尹暎暎さん、榎戸バービーさん、その後ろ(越野理事長の隣)が林恒璋さん。

## 越野理事長、台湾の大学で講演

越野理事長が 5 月 20 日、台湾新竹市の玄奘大学で講演を行いました。「日本人とのふれあい、地域との関わりを大切に ～JET の日本語教育」というタイトルで、JET が東京商工会議所などと連携して日本語教育や進路指導に取り組んでいることなどを紹介しました。

## 浮島文部科学副大臣が視察

「外国人の受入れ・共生のための教育推進検討チーム」の座長を務める浮島智子文部科学副大臣が、5月27日、JETの授業を視察し、越野理事長らと日本語教育の在り方などについて意見交換をおこないました。

この視察は、平成30年12月25日に決定した「外国人の受入れ・共生のための総合的対応策」を踏まえ、文部科学省内に設置した「外国人の受入れ・共生のための教育推進検討チーム」が今後の議論の参考とするために実施されました。

視察には浮島副大臣のほか、太田昭宏衆議院議員、竹谷とし子参議院議員も加わりました。また、文部科学省や文化庁からも6名の関係係官が同行しました。

越野理事長は、様々な日本語学校がある中で、真に「教育」に取り組んでいる日本語学校には文科省が支援し、育てていくことが重要だと述べました。

授業見学はDクラス(中級)でおこないました。木村先生が担当する、新聞記事を使った授業でした。小グループで記事の内容を紹介し合い、理解を深めてゆく過程を、副大臣たちは興味深く見守っていました。日本語学校の授業を初めて見たという議員や係官もいて、JETの学生のレベルの高さに感心していました。

視察には民放各社など報道陣も多く詰めかけ、日本語教育に対する関心の高さがうかがえました。



## 就職セミナーに8名参加

卒業後に国内就職を希望する学生を対象に、校内就職セミナーを開きました。セミナーに登録した学生は8名。今学期はアジアリンクの小野様を講師に迎え、①5月15日、②29日、③6月5日の3回、セミナーを行いました。

①では、就職活動には必須の「企業分析・自己分析」。この日はアジアリンクの井上様もご参加。就活のプロの目線からのアドバイスをたくさんいただきました。②は面接試験の練習を、③は履歴書の書き方(自己PRと志望動機)についての勉強会を行いました。

就職セミナーの締めくくりは「企業経営者との意見交換会」。6月19日に東京商工会議所北支部から5名の企業経営者の方に

お越しいただきました。まずは全体で自己紹介や質問の時間。その後、グループに分かれて意見交換や相談を行いました。毎回「時間が足りない!」という声上がるため、今回は意見交換の時間を少し長めにとりました。...が、やはり時間が足りない! 終了後に個人的に話を聞きに行く学生の姿も。参加した学生は「楽しかった」「自分のことをもう一度よく考えてみようと思う」といった満足気な様子でした。

今回の就職セミナーも、自分自身を見つめ直すいい機会になったのではないのでしょうか。学んだことを、ぜひ今後の就職活動に活かして欲しいものです。(草塩仁美)



←企業経営者との意見交換会。インターンを前向きに検討して下さる会社も。

## ビジネスコミュニケーション講座を初開講

今学期、新しい取り組みとして、中級以上のクラスの希望者を対象に、特別授業「ビジネスコミュニケーション」を開講しました。これは日本人とのトラブルを避けるために必要なコミュニケーションの能力を養うことを目的とした、全5回の有料のコースです。JET特製のテキストを使った特別授業に、12名の希望者が集まりました。

授業はディスカッション中心。日本人の考え方や働き方について理解し、外国人との間で起こりやすいトラブルは何か、どうすればトラブルを避けられる



のかを考えました。みんな積極的! また、身だしなみのポイントを紹介し、電話対応のロールプレイなども行いました。

最終日は、大手企業で新人研修などを担当しているマナー講師の草塩薫先生をお招きし、マナー講座を行いました。(何を隠そう、私(草塩)の姉です。)お辞儀や入退室、名刺交換やお茶出しなどの作法を習ったのですが、やってみると、意外と難しい! 苦戦していましたが、みんな大満足でした。(草塩仁美)



会釈と普通礼、最敬礼の違いを実践で確かめる。右奥が草塩薫先生。

## 【スピーチ大会・最優秀賞】

## 「留学してからの私」

Chee Jia Hui

今座っている皆さんはなぜ日本に留学に来たのでしょうか。日本で就職するため、日本の大学に入るため、またただの趣味など、それぞれの理由があると思います。私は日本人のように話せるようになりたいと思って留学することにしました。しかし、もう1つの大きな理由があります。それは、安全地帯から飛び出すということです。

留学する前に、私の世界は学校と家族だけでした。毎日同じことを繰り返して、平凡な生活をしていました。親と暮らして、日常の雑事ができないまま、ずっと親の庇護のもとにいました。一人で買い物をしたこともなかったし、お米さえ炊けないぐらいでした。

しかし、留学することを決めた時から、私の人生は変わりました。初めて家族と離れて海外に暮らして、一人で料理をしたり、自分の身の回りのことをしたりしなければならなかったのが、最初はつらかったです。でも、それが勉強になれるチャンスだと思って、積極的に友達と親に聞いたり、ネットで調べたりしました。時間が経つにつれて、新しい生活にだんだん慣れてきて、身の周りの世話ができるようになりました。その時、親がずっと私のために一緒に懸命働いてくれているの気づけなかった私は、やっと気づきました。親が私を育てるために、全身全霊をかけてくれていることが分かって、今の私は前より生きている毎日をもっと大切にしている、もっと頑張りたいと思っています。

皆さんは留学してから、前の自分と比べて、どのぐらい変わったのでしょうか。私の変わったところは、身の周りの世話ができるようになったことと親がくれたすべてをもっと大事にすることだけじゃなくて、ほかにもいっぱいあります。その一つは物事を色んな見方で見ることです。学校でどのように日本人と自然に話せるのかという会話の授業があって、そこで、あいづちや話の切り出し方などを勉強するときに、日本人の考え方を学ぶことが必要でした。そこで、日本人の立場から見て、物事の他の面が知れました。日本人だけじゃなくて、他の国の友達の考えや意見を聞いて、違う角度から見て、物事に対して色んな見方が見えてきて、世界観や視野も広がりました。どんなに困難な状況で欠点ばかり見えても、見方を変えたりすれば、きっとそのいい面や解決方法が見つかるでしょう。

もちろん、留学はいいことだけではありません。大変なことや心配なことなど、皆さんもきっと経験があると思います。家族がいないことや一人暮らしをすることなどに心配がありますが、私にとって、一番心配なのは、一人で新しいチャレンジをして失敗することでした。留学する前の私は、ずっとそばにいた親がいつも助けてくれたので、一人で新しいチャレンジができなくなって、失敗するのが怖かったです。でも、日本に来てから、失敗するのは必要なことに気づきました。なぜかという、失敗は成功の元だからです。ホンダの創業者の本田宗一郎はこんな言葉を言いました。チャレンジして失敗を恐れるよりも、何もしないことを恐れるという言葉です。失敗したら、失敗から習ったり、経験を積んだりすることができます。大事なのは失敗した後、落ち込んだ気分を回復して、挫折を乗り越えることです。どんなに困難や失敗があっても、諦めないで、立ち上がって、前に進んで行くことです。

この留学のおかげで、私の人生はバラ色になりました。せっかく日本にいるのだから、新しいことをやりたいという気持ちを持って、色んなチャレンジをしてきました。例えば、ホームステイに参加することやこのスピーチ大会に出場することなどです。私の考え方も性格も前より少し変わりました。前より勇気を持って、親を頼らないで、もっと自立するようになりました。日本へ留学に来たことで、日本語の勉強だけじゃなくて、学校や親からは教われないことを学びました。留学は素敵なこと、一言でいえば、留学して本当によかったです。

最後に、皆さん、失敗を恐れなくて、勇気を持って、チャレンジをしてください。安全地帯から飛び出したその先では、きっと新しい発見の驚きや喜びが見つかるはずです。

## 【スピーチ大会・最優秀賞】

## 「チキンナゲットは好きですか?」

Asa Satyagraha

こんにちは。Aクラスのアサです。今から日本にいる間、困っていることを一つ紹介したいと思います。よろしくお願ひします。今ちょっと緊張しているので、急にお腹が空いていますね。皆さんおすすめ食べ物何かがありますか。・・・ほとんど和食ですね。様々な和食はほとんど共通点があります。なんだと思いますか。実は和食は私が食べられないものばかりなのです。このような点は日本にいる間、困っていることというよりも苦しいと言えるかと思ひます。

多分皆さんはどうして私が和食を食べられないということに疑問があるでしょう。簡単に言えば私はイスラム教徒だからです。イスラム教徒として必ず守るべき戒律があり、飲食習慣もその中に含まれています。豚肉を食べたり、酒を飲んだりすることが禁じられ、和食どころか普段コンビニやスーパーなどで売っている食物さえもほとんど食べられないし、食べ物にこだわる日本に在住しているイスラム教徒はいったいどうやって生きていくのでしょうか?

小さい頃からこのような考え方を身につけさせられている私は揺るがない信念を持ち、日本へ来てから、大変な生活を送っています。確かに、最近グローバル化における発展と共に、東京や大阪といった都会ではイスラム教徒が食べてもよい食べ物が増えてきているんですが、まだ少ないです。つまり、日本人がこの話題への意識は低いと言ってもいいほどです。また、買い物するとき、食品の原材料名を見たら、安全に食べられるとみられるものも実は食べられない可能性もあります。

例えば、初めて日本でスーパーへ行ったとき、インスタントラーメンに豚肉が入っていて、弁当にも豚から作られたゼラチンばかり含まれているので、食べられるものをなかなか見つけられませんでした。ある日、目立つ色で「チキンナゲット」と書いてあるパッケージを見つけました。嬉しくてたまらず、思わず「やった! チキンだ」と声をあげました。ところが、よく観察したら、びっくりしました。チキンナゲットなのに、豚肉が入っているんですよ。嘘だ。謎だと思いました。このような発見は今慣れてきました。それでも、美味しいと見えるケーキ、便利で手に入りやすい弁当もなかなか食べられないなんて苦しいです。

さらに、イスラム教徒として、食べられないものが多く、友達とどこか行くとき、お腹が空いたら、面倒になるのではないのでしょうか。皆が懂れて食べたがっている食べ物を抑え、私一人が食べられないからです。私の条件に応じてレストランを選ぶのは私が皆の楽しみを邪魔してしまうように感じます。そうしたら、いやな気分となり、みんなに迷惑をかけてしまいます。しかし、ほかの人を優先して、私は食べることができず、誘われなくなると、自分の存在がみんなに認められないと思っています。それならば、どうすればいいかということかなり難しいことだと思います。

食べるという行動はそのものだけではありません。小さなこととたくさんの人に見なされているかもしれませんが、私にとってほかの人と一緒に食べるという行動を通じて、人と人との縁を深くする行動とも言え、食べ物の美味しさを楽しみながら、他人に声をかけ、体もよくなるし、相手との関係も強くなる場面だと思います。こういう場面はそれ以外はないのではないのでしょうか。そうすると、一緒に食べるという行動は人生に欠かせないものだと思ひています。そこで、食べ物が限られている私はどうなってしまうのか、暗闇の中に冒険するようにその答えを探し続けています。でもやっぱり日本へ来なければよかったのにと後悔はありません。自分自身も周りに適応して、成長するほかないと思っています。

では、みなさん、今私はまだお腹が空いていますね。スピーチ大会が終わったら、私と一緒に食事をしませんか。チキンナゲットが食べられないけど。

ご清聴ありがとうございました。

## 【スピーチ大会の全出場者(発表順)】

	発表者	クラス・国籍	演 題
1	Francis Nicolas Tjan	(B・インドネシア)	「今から寝よう?!」
2	張 小芸	(C・台湾)	「どうして?」
3	Chee Jia Hui	(D・マレーシア)	「留学してからの私」
4	陳 柏仲	(F・台湾)	「現状突破」
5	Asa Satyagraha	(A・インドネシア)	「チキンナゲットは好きですか?」
6	楊 惟中	(E・台湾)	「ステレオタイプにさようなら」
7	尹 暎暎	(G・韓国)	「韓国語と日本語」
8	游 茹婷	(E・台湾)	「南の海のそばで学んだこと」
9	榎戸バービー	(G・フィリピン)	「どうして私は背が低いですか」
10	陳 孟汝	(A・台湾)	「私の選択」
11	Shih Tany Nitami	(F・インドネシア)	「“辛さ”が教えてくれたもの」
12	陳 立紘	(C・台湾)	「日本人のユーモア」
13	Le Tiffany Diem	(D・アメリカ)	「一番便利な言葉」
14	林 恒瑋	(B・台湾)	「日本のことを学ぶ価値」



大会開始前に出場者全員で記念写真。ポスター制作にあたった陳立紘さん(校長の隣)と徐子媛さん(右端)も。

## 湯河原ホームステイで、日本語上達

今年も湯河原国際交流協会のホームステイプログラム(7月30日～8月6日)に6名が参加しました。参加前は、日本人の家庭に1週間もお邪魔するというので、何を話したらいいのか、何をしたらいいのかと心配そうでしたが、ホストの方たちに温かく迎えられ、あっと言う間に家族の一員のようになれたようです。ホームステイ中は、甲冑装着体験をしたり、温泉に入ったり、やっさ祭りに参加したり、花火大会を見学したりと大忙しでした。「さよならパーティー」(下の写真)では、国の料理を披露し、国の紹介をしました。そこでも家族の人たちにたくさん助けられ、応援されていたのが印象的でした。普段、学校では見せない笑顔と日本語の上達ぶりに、驚かされました。

(山口閑子)



## 花火見物に60名参加

第53回葛飾納涼花火大会に約60名の学生と出かけました。夏と言えば浴衣!というわけで、多くの学生が綺麗な浴衣を着て、夏の風物詩を楽しみました。事前に着付け教室に参加した学生は、一人で上手に着ることができたと喜んでいました。12名の学生有志がみんなのために早く学校を出て場所取りをしてくれました。当日は雨の心配もありましたが、無事終了。ただ風の影響で会場が煙で包まれたり、破片が落ちてくるなどのハプニングも。迫力満点の花火を体感でき、良い思い出になりました。(岡田安弘)



花火の撮影に、真剣な表情の学生たち。

## サマーコース開講 8ヶ国 26名参加

6月28日からのサマーコースに台湾、インドネシア、ロシア、タイ、韓国、カナダ、アメリカ、ニュージーランドから26名が参加しました。

7月26日までの4週間は「総合日本語コース」として通常のレベル別クラス授業、その後の2週間(7月29日～8月9日)は会話を中心とした授業(2レベル)を行いました。歌舞伎や能、専門学校の体験授業、大学生との交流活動、博物館見学、コンサート、浴衣着付けと花火大会、茶道体験、盆踊り、小学生との交流会、大地震体験、野球観戦など盛りだくさんのアクティビティに参加して、楽しく日本語や日本の文化を学びました。

## 教育実習で「人生」を教わる

7月16日から30日までの2週間、獨協大学から教育実習生2名(甲斐千裕さんと竹谷柚子さん)を受け入れました。以下は甲斐さんの感想です。

♪ ♪ ♪

日本語学校で初めて授業見学を行い、毎日が新しい事の発見の連続でした。これまで見学してきた国内外の大学の日本語の授業とは大きく異なり、授業のテンポが速く、学習者の意欲や積極性が非常に強いことに驚きました。教師が促さなくても学習者が自発的に発言することが多く、口頭練習では皆が大きな声で、間違いを恐れずに発言している姿は大学の授業などでは見られない光景でした。

紆余曲折を経た様々なバックグラウンドを持つ学習者と交流することで、私は人生に決して正解はないんだと教えられた気がします。これが今回の実習で得た最大の収穫だと思っています。またJETのみなさんとお会いしたいです。

# 地域との交流活動

## 中学生がJETで職場体験

6月25日~27日の3日間、北区の紅葉中学校の3年生2人が、JETで職場体験をしました。初めは緊張した面持ちでしたが、3日目には随分と慣れてきました。漢字の授業を見学した時は、部首の名前をすらすら言えるので、留学生からは感嘆の声が。日本語教師という職業の魅力をちよっぴり味わえたかな?

## 地元小学生との交流会

8月7日、夏の会話コースで、地元の小学生たちと異文化交流会を行いました(地域の子供向けイベントを企画する Jimo Kids 主催)。テーマは「日本の夏祭り」。今回は大正大学のみなさんもスタッフとして企画から携わり、当日は芝浦工業大学の学生さんも参加。ベーゴマやお好み焼き、かき氷など、夏ならではの催しに70名近く集まり、とても賑やかな交流会になりました。

## 北区短期国際交流員

8月~9月、JETから10名が北区短期国際交流員として区内の保育園や福祉施設でお手伝いをしました。保育園に派遣された学生は、「可愛い子供たちの歓迎会に感動し、すっかり緊張が解けた。毎日元気に楽しく遊んだ。」と感想を語っていました。

## 台湾夜市

6月1日~2日、赤羽駅西口の広場で「台湾夜市」(西赤羽商店街連合会主催)が行われました。2日間で1万人以上が訪れ、台湾の屋台料理や野外ステージなどを楽しみました。発起人は本校就職セミナー講師でもおなじみの台湾人、李昌宏さん。JETの学生も国籍問わず足を運び、スタッフとしても、魯肉飯コーナーの売り子や会場設営、ゴミ当番に大活躍しました。

## 北区盆踊り大会

7月30日、サマーコースの学生3名と、北区の盆踊り大会に参加しました。会場は北とびあ(屋内)。エアコンがきいている快適な空間で涼しく踊るのかと思いきや、時間前にもかかわらず、浴衣を着た子供から年配の方までぎっしりで熱気ムンムン。最初はためらっていた学生も、一度踊りの輪の中に入ってしまうと、見よう見まねで音に合わせて、勝手に体が動く動く。「暑い!楽しい!」と言いながら何度も輪の中へ入って行きました。

## 「地域とのかかわり」をテーマに

### 日本語学校教育大会で発表

日本語学校教育研究大会(日本語教育振興協会主催)が8月3日と4日に代々木のオリンピックセンターで行われ、JETは分科会II「実践共有を通じた学び合い—地域とのかかわり」で得猪、草塩両先生が東京商工会議所との連携による活動について発表しました。会場では活発なグループ討論が行われ、JET

の活動は都市型モデルでは「先駆的」だとの声もいただきました。大会にはJETからも12名の先生が参加し、それぞれ熱心に講演や研究発表に耳を傾けていました。

## 学 校 日 誌

- 5月14日~16日 早稲田大学大学院日本語教育研究科の学生5名が進学クラスの授業を見学しました。
- 5月24日 日本留学試験対策の一環で、井上校長が世界史の特別授業を行いました。
- 6月18日 全校一斉(中級クラス以上)の漢字進級テストを実施しました。6級のCheeJiaHuiさん(マレーシア)は見事満点で合格し、飛び級で4級クラス(上から2番目)に進級しました。
- 6月21日 学習院大学の日本語教育専攻の学生約50名に、山口先生と角南先生が、日本語教師という職業の魅力について講義を行いました。「日本語教師が進路の1つに加わった」という感想をいただきました。
- 6月26日、7月9日、10日、11日 上中里駅にある北区防災館で防災体験をしました。
- 6月27日 QtoJAPONの主催で、大学フェアを開催しました。横浜国立大、宇都宮大、上智大、中央大、武蔵野大がJETに来ていただき、学校の説明を行いました。
- 7月1日、2日、19日 63名の学生が北区保健所で結核検診(レントゲン)を受けました。
- 7月4日 全校で避難訓練を行いました。学校からの安否確認のメールに返信する訓練も行いました。
- 7月5日 東京製菓学校の体験授業に19名の学生が参加しました。ケーキやパンを作りの様子を見学。体験では抹茶ロールケーキを作りました。
- 7月10日 進学クラスの大学院研究計画発表会に大学院進学希望者7名が参加しました。4月から準備をしてきた研究計画を、校長ら6名の教師の前で披露。時には厳しい質問も受けましたが、踏ん張って答えていました。日本語力も計画書もやるべきことがまだまだあると認識した時間でした。
- 7月12日 サマーコースの学生20人を江戸東京博物館に引率しました。様々な体験コーナーでは、千両箱を持ったり、駕籠(かご)に乗ったり思い思いに楽しんでいました。
- 7月15日 高田馬場管絃楽団の演奏会にJETの学生15名が招待されました。ある学生は「このオーケストラのパフォーマンスは自分の国では味わえない」と感動していました。
- 7月16日 日本事情『よむよむマンガ』(大塚雅子先生)で、まんがワークショップを開催。プロの漫画家加藤屋大悟先生と橋爪なつこ氏が来校され、つけペンを使ってオノマトペの文字をデザインして描いてみました。
- 7月22日 ようこそ先輩。台北で日本語教師として第一線で活躍中の練禱瑩さん(2005年卒)が来校し、一日だけの「Q&Aコーナー」を開設。後輩たちに日本語上達の秘訣などを教えてくれました。

# 大学生との交流活動

## サマーコースでは交流授業を5回実施

●5月23日 学習院大と東京女子大から7名をお招きし、Aクラスで「若者の自己評価」に関するインタビューを行い、その後交流会を行いました。日本の若者たちは自己評価が低いとテキストで勉強しましたが、実際はテキストとは違う反応もあり、とても有意義な時間を過ごせました。

●5月28日 Gクラスでの交流会に、SNIE(国際交流大学連絡協議会)の呼びかけで、都内の大学生8名が参加してくださいました。来日して2か月の初級クラスでしたが、頑張って日本語を使っていました。大学生からも「2か月でこんなにできると思わなかった」とうれしい一言をいただきました。

●6月23日 東京オリエンテーリング(SNIE主催)に、JETから8名の学生が参加しました。参加した学生からは、「浅草は行ったことがあったけど、日本人と一緒に散歩できて、新鮮だった」と言っていました。みんな口を揃えて楽しかったと言っていました。

●7月10日 WIC(早稲田大学の国際交流サークル)の「日本教室」に、サマーコースの学生9名を引率参加してきました。テーマは日本の夏文化。七夕に関するクイズやスイカ割り、かき氷などを楽しみました。少し日本語が難しかったですが、いい経験になったのではないのでしょうか。

●7月12日 東京女子大学の松尾慎教授の授業に参加させていただきました。授業では、外国人に日本語を教える方法を大学生たちが発表していました。「うれしい」と「たのしい」の違いなど、中級以上の留学生にとっても改めて考えると難しい問題にチャレンジしていました。普段は入れない女子大学で授業を受けたJETの男子学生たちは貴重な体験をしました。

●7月30日、8月1日、9日 サマーコースの初中級クラスでは3回、大学生との交流会を行いました。東京女子大学、獨協大学、明治大学、学習院大学から毎回3~7名の大学生にクラスに入ってくださいました。回を重ねるごとに自然という表現を使えるようになりました。



東京女子大学からのインターン、獨協大からの教育実習生も加わりました。

●8月2日、9日 サマーコースの初級クラスでは2回、大学生との交流会を行いました。拓殖大学、学習院大学の学生と交流しました。拓殖大からは9名も集まってくれました。ゲームをしたり、日本語で発表をしたり、終わってもおしゃべりを続けていて、充実した時間を過ごせたようです。



## 日本の伝統芸能を鑑賞

6月17日、19名が歌舞伎『神霊矢口渡』を観ました。6月24日は、9名が狂言『文山立』と能『船弁慶』を鑑賞。7月3日はサマーコースの学生ら19名が歌舞伎『菅原伝授手習鑑』他の、7月24日に9名が狂言『伯母ケ酒』と能『小鍛冶』の鑑賞会に参加しました。(歌舞伎は国立劇場、能楽は国立能楽堂) 今年は事前に準備したチケットが全て「完売」という盛況ぶり。当日の道すがら、スマホを片手に演目の下調べをしている学生もいました。初めて見る伝統芸能にみんな興味津々!! 日本の代表的な伝統文化を堪能しました。(角南瑞樹)



## 日本の伝統文化に触れる

●浴衣の着付け教室 7月16日、13名が参加しました。昨年に続いてお手伝いいただく内田先生のご指導のもと、翌週の花火大会で美しい浴衣姿を披露したいと、何度も練習しました。

●茶道体験 7月19日、6か国22名の学生が得猪先生のお点前でお抹茶と金沢森八のお菓子を味わいました。先生方に一服さしあげるために「お好きなお菓子をお選びください」「どうぞ召し上がってください」などと熱心に何度も口々に繰り返しながら、いそいそと事務所向かいました。敬語を使ういい機会でしたね!